

<機能病態学教室 セミナー>

**Molecular Pathogenesis of Alzheimer's Disease:
Role of the Gut Microbiome**



Sangram S. Sisodia, Ph.D

Thomas Reynolds Sr. Family Professor of Neurosciences Professor
Director, Center for Molecular Neurobiology
Departments of Neurobiology and Neurology
The University of Chicago

日時：202年12月4日（水）午前11時-12時

場所：東京大学薬学部 西館1階 西講義室

Dr. Sisodia はアミロイドβ前駆体タンパク質の代謝解析（Sisodia et al., Science 1990）を皮切りとして、家族性アルツハイマー病原因遺伝子プレセニリンの機能解析（Thinakaran et al., Neuron 1996）、家族性遺伝子変異に基づくアミロイド斑蓄積モデルマウスの確立（Borchelt et al., 1997）、更には環境因子が神経幹細胞やアミロイド斑蓄積に与える影響（Lazarov et al., Cell 2005）など、アルツハイマー病に関する分子病態研究において常に先駆的な研究を進めている、世界的に著名な研究者です。今回、シカゴ大学との戦略的パートナーシップに関連してご来日の際に最近精力的に解析されておられるマイクロバイオーーム（腸内細菌叢）とアルツハイマー病病態に関わる研究成果を伺う機会を設けました。大学院生だけでなく、PI・若手研究者の方々の多数のご参集をお待ちしております。

Contacts

東京大学大学院薬学系研究科機能病態学教室 富田泰輔

tel: 03-5841-4868 e-mail: taisuke@mol.f.u-tokyo.ac.jp